

# 2020年度一般入学試験(TEAP利用型) 記述式問題 解答

科目:2月2日 TEAP世界史

設問 7	大航海時代を迎えたこの当時、西欧では、 <u>国家事業</u> として海外進出を図り、新たな領土を獲得するとともに、莫大な経済的利権を確保しようとする動きが顕著となった。その一方で、キリスト教世界の内にあっては新教による <u>宗教改革</u> の嵐が吹き荒れ、外にあっては <u>イスラーム教</u> の勢力を追い払うべく厳しい抗争が続いていた。このため、旧教側は、信仰や道徳の刷新を目指しつつ、植民地住民や先住民へのキリスト教化を打ち出した。(196字)
---------	---

設問 8	「香料」とは、当時ヨーロッパで高く取引されたアジア貿易の産品である香辛料を指し、いわば経済的な利益を象徴している。また、「 <u>靈魂</u> 」とは、誰もが救済されるべき魂を意味し、信仰生活においては究極の価値であるといつてよい。このお方をはじめとする宣教師はもちろん「 <u>靈魂</u> 」に目を向けて活動していたに違いないが、他方で、その活動を継続するにあたっては「香料」とも無関係ではなかったはずである。すなわち、みずからを送り出した国の権力者や教会組織、みずからが身を置くこととなる地域の支配層や商人らの、「香料」をめぐるさまざまな思惑を見据えつつ、信者獲得を図っていたように思う。その意味では、宣教師たちの個人的な使命感やその活動の尊さについては理解できるが、「 <u>聖なる精神世界</u> 」を貫徹することの難しさを感じざるをえない。(349字)
---------	--